



新国立劇場



新国立劇場 2018/2019 シーズンオペラ

アレクサンダー・ツェムリンスキー

フィレンツェの悲劇

ジャコモ・プッチーニ

ジャンニ・スキッキ

新制作

Eine florentinische Tragödie/Gianni Schicchi

2019 年 4 月 7 日(日)～17 日(水)

会場:新国立劇場オペラパレス 2018 年 11 月 23 日(金祝)発売



『フィレンツェの悲劇』セットプラン

花の都フィレンツェで繰り広げられる様々な人間ドラマ。 ツェムリンスキーの悲劇とプッチーニの喜劇を一挙上演！

レパートリーの拡充を掲げる大野和士監督のもと、新国立劇場では今シーズンより、ダブルビル(1幕もののオペラの2本立て公演)を1年おきに上演します。『フィレンツェの悲劇』は、耽美的で豊潤な音楽で知られるツェムリンスキーが作曲した、夫婦と妻の愛人の3人が繰り広げる奇妙な顛末を描いたオペラ。もう一方の『ジャンニ・スキッキ』はアリア「私のお父さん」で有名な、遺産相続をめぐる騒動と若いカップルの恋を描いたプッチーニ唯一の喜劇。ともに 20 世紀初頭を代表する作曲家による、たった 1 幕に人間模様がぎゅっと凝縮された秀作のカップリングを、迷宮都市フィレンツェを手掛かりにお楽しみください。

レイフェルクス、アルバレス、世界随一のバリトンが登場

キャストにはセルゲイ・レイフェルクス、カルロス・アルバレスと世界的名バリトンをそれぞれの作品に迎えます。アルバレスはジャンニ・スキッキにロールデビュー。齊藤純子、砂川涼子、村上敏明ら実力派日本人歌手たちが共演します。指揮は後期ロマン派を得意とする沼尻竜典、今や日本随一の売れっ子演出家でドラマの繊細な読み込みに定評のある栗國淳との最強タッグで上演します。

< 資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ >

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

花の都フィレンツェで繰り上げられる様々な人間ドラマ。 ツェムリンスキーの悲劇とプッチーニの喜劇を一挙上演！

新国立劇場では、レパートリーの拡充を目指し、今シーズンよりダブルビル（1幕ものオペラの2本立て公演）を1年おきに上演します。初回となる今回は、フィレンツェを舞台とした2作品の組み合わせです。

『フィレンツェの悲劇』（1917年シュトゥットガルト宮廷劇場で初演）は、耽美的で豊麗な音楽で知られるツェムリンスキーの代表作。デカダンス文学の旗手オスカー・ワイルドの戯曲を原作に、夫婦と妻の愛人の3人が繰り上げる奇妙な悲劇を描きます。ツェムリンスキーはマーラーに見出されて世紀転換期のウィーンで活躍していた作曲家で、豊潤な前奏曲や終盤の官能的な二重唱では、後期ロマン派ならではの色彩豊かで壮麗な音楽が堪能できます。『ジャンニ・スキッキ』（1918年メトロポリタン歌劇場初演）は富豪の遺産相続をめぐる強欲な人間たちの騒動と若いカップルの恋を描いた、プッチーニの喜劇。ラウレッタのアリア「私のお父さん」は、コンサートで歌われることも多く、テレビCMなどでも馴染みの人気曲です。

ともに20世紀初頭を代表する作曲家による、1幕に人間模様が凝縮された秀作が、フィレンツェという奥深い芸術の町を舞台に繰り上げられます。

レイフェルクス&アルバレス、世界随一の名バリトンが登場

人生の機微がシニカルに描かれた1幕もの2作品によるダブルビル、キャストにはセルゲイ・レイフェルクス、カルロス・アルバレスと世界的名バリトンをそれぞれの作品に迎えます。この春舞台デビュー30周年を迎えるというアルバレスは、この公演でジャンニ・スキッキ役にロールデビューを飾ります。『フィレンツェの悲劇』ビアンカにはヨーロッパで活躍する齊藤純子が登場、『ジャンニ・スキッキ』のラウレッタとリヌッチョの若いカップルには砂川涼子、村上敏明という贅沢な布陣。日本を代表する歌手陣の競演も楽しみです。

指揮は後期ロマン派を特に得意とし、日本有数のオペラ指揮者の沼尻竜典、演出はイタリア育ちでドラマの繊細な読み込みに定評があり、こちらも日本随一の売れっ子演出家である栗國淳という、日本オペラ界最注目タッグで上演します。

<あらすじ>

「フィレンツェの悲劇」

織物商人シモーネが旅から帰ると、妻ビアンカの許にフィレンツェ公爵の息子グイード・バルディがいる。シモーネはグイードが買い物に來ただけのように振る舞い、一番高い商品売りつけようとすると、グイードはビアンカを所望する。シモーネは紛らわせようと宴を供するが、二人の様子を見て浮気の疑いを強め、席を立つ。帰ろうとするグイードはビアンカに長いキスをし、ビアンカは愛を誓う。シモーネとグイードは決闘で剣を交え、最後にシモーネがグイードを絞め殺す。ビアンカはシモーネの強さに恍惚とし、グイードの死骸のうで二人は見つめあう。

「ジャンニ・スキッキ」

裕福な商人ブオーゾ・ドナーティはまさに死んだばかり。親戚が集まって悲しんでいるが、実は皆考えていることは遺産のこと。甥のリヌッチョは遺言状を見つけ、それをかたにジャンニ・スキッキの娘ラウレッタとの結婚を認めるように伯母ツィータに迫る。ツィータはしぶしぶ認め、いざ遺言状を開くが遺産は修道院にと書かれている。書き換えてしまおうとたくらみ、それをジャンニ・スキッキに依頼する。現れたジャンニ・スキッキは断るが、かわいい娘のラウレッタに頼まれ引き受ける。しかしブオーゾになりすまして遺言を口述する段になると、すべてはジャンニ・スキッキに遺すと言い出す。親戚たちは怒り狂うがすでに後の祭り。最後にジャンニ・スキッキが口上を述べ幕が降りる。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】沼尻竜典

Conductor: NUMAJIRI Ryusuke

びわ湖ホール芸術監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督、リユーベック歌劇場首席客演指揮者。ブザンソン国際指揮者コンクール優勝以来、ロンドン交響楽団、モントリオール交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、シドニー交響楽団等欧米各国のオーケストラに客演。国内においてもNHK交響楽団を指揮してのデビュー以来多くのオーケストラにおいて首席客演指揮者を歴任。オペラ指揮者としてもケルン、ミュンヘン、ベルリン、シドニー、新国立劇場、びわ湖ホール等にて数々の演目を指揮、成功に導いている。2011年夏にはサイトウ・キネン・オーケストラへデビュー、14年1月にはオペラ『竹取物語』を作曲・世界初演、今後も国内外で再演が予定されている。1991年第1回「出光音楽賞」、99年第7回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2001年第51回芸術選奨文部科学大臣新人賞、04年第3回齋藤秀雄メモリアル基金賞、05年第46回毎日芸術賞、第23回中島健蔵音楽賞、11年文化庁芸術祭優秀賞、第61回芸術選奨文部科学大臣賞、17年紫綬褒章をそれぞれ受賞。新国立劇場では『カルメン』『フィガロの結婚』『鹿鳴館』『トスカ』、鑑賞教室『カルメン』『トスカ』を指揮。



【演出】栗國 淳**Production: AGUNI Jun**

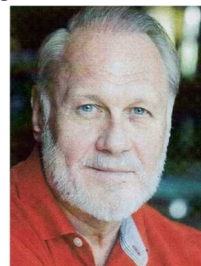
東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。新国立劇場ではF.ゼッフィレッリ、L.ロンコーニなど巨匠達の演出助手を務めた。1998年から文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H.ブロックハウス氏のもとで研鑽を積んだ後、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。97年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイダ』『オテロ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』『ノルマ』、日生劇場オペラ『アイナダマール』（日本初演）、紀尾井ホールバロックオペラ『オリンピーアデ』など多数の作品を手掛ける。海外ではサッサリ・ヴェルディ劇場『アンドレア・シェニエ』『エルナーニ』、スロベニア国立マリボール歌劇場『ホフマン物語』を演出している。11年度エクソノ・モビル音楽奨励賞を受賞。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』、小劇場オペラ『外套』を演出。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所演出主任講師。

**【グイード・バルディ】ヴゼヴォロド・グリヴノフ****Guido Bardi: Vsevolod GRIVNOV**

モスクワ・グネーシン音楽学校に学ぶ。その後モスクワ・ボリショイ劇場のソリストとなる国際的なキャリアをスタート、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ジュネーヴ大劇場、マドリッド王立劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、サンフランシスコ・オペラなどに出演し、ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー、ドナルド・ラニクルズ、マイケル・ティルソン・トーマス、ジェームズ・コンロン、クリスティアン・ヤルヴィ、ユーリ・テミルカーノフらと共演している。レパートリーは『アンナ・ボレーナ』レスター伯爵、『ドン・ジョヴァンニ』『ドン・オッターヴィオ』、『仮面舞踏会』リッカルド、『ルイザ・ミラー』ロドルフォ、『ドン・カルロ』タイトルロール、『アイダ』ラダメス、『アドリアーナ・ルクヴール』マウリツィオ、『カルメン』ドン・ホセ、さらにはロシア・オペラの殆どのテノール役と幅広い。コンサートでもヴェルディ『レクイエム』、ロッシーニ『スタバト・マーテル』、ストラヴィンスキー『エディプス王』『結婚』、チャイコフスキー『ロメオとジュリエット』を歌っている。近年では『ラインの黄金』ローゲにデビューした他、セミヨン・ビシュコフ指揮『ホヴァーンシチナ』でBBCプロムスに出演した。新国立劇場初登場。

**【シモーネ】セルゲイ・レイフェルクス****Simone: Sergei LEIFERKUS**

ロシア生まれ。レニングラード（現サンクト・ペテルブルク）音楽院に学ぶ。1977年キーロフ・オペラ（現マリインスキー劇場）のメンバーとなり国際的な注目を集める。その後、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、サンフランシスコ・オペラ、メトロポリタン歌劇場、ネザールランド・オペラ、テアトロ・コロネ、エジンバラ音楽祭、ブレゲンツ音楽祭、ザルツブルクイースター音楽祭など、世界中で活躍している。またロンドン響、ニューヨーク・フィル、ボストン響、フィラデルフィア管などに招かれ、クラウディオ・アバド、ヴァレリー・ゲルギエフ、ベルナルド・ハイティンク、ズービン・メータ、リッカルド・ムーティ、小澤征爾、ゲオルク・ショルティらと共演。レパートリーには『エウゲニ・オネーギン』『ドン・ジョヴァンニ』『ナブッコ』『マクベス』『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、『アイダ』アモナズロ、『ローエングリン』テルラムント、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『トスカ』スカルピア、『ファウストの劫罰』メフィストフェレスなどがある。ムソルグスキー歌曲全集をはじめ、CD、DVDも数多い。新国立劇場には03年『トスカ』スカルピア、05年『アンドレア・シェニエ』ジェラルド、06年『こうもり』フランクに出演。

**【ビアンカ】齊藤純子****Bianca: SAITO Junko**

東京都出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。フランス政府給費留学生として渡仏し、パリ、ニューヨーク、ボルドーなどで学ぶ。以後ボルドー大劇場、ナポリ・サンカルロ劇場、ラヴェンナ・ダンテ・アリギエーリ劇場、南チロル音楽祭、チロル音楽祭、サンタンデル音楽祭など欧州各地で活躍している。レパートリーには『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『パルジファル』クンドリー、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『フィデリオ』レオノーレ、『トスカ』『アルツィーラ』『カルメン』タイトルロール、『イドメネオ』イーリアなどがあり、コンサートでもモーツァルト『短調ミサ』、ハイドン『天地創造』、フォーレ、ドヴォルザーク、シューマン『レクイエム』、ベートーヴェン、ベルリオーズ『莊嚴ミサ』、ロッシーニ、ペルゴレージ『スタバト・マーテル』などの宗教曲からシェーンベルク、ラヴェルの歌曲、さらにベリオ、エトヴェシュといった現代曲まで手掛けている。『アルツィーラ』『ニーベルングの指環』などCD、DVDも発売されている。新国立劇場初登場。



【ジャンニ・スキッキ】カルロス・アルバレス**Gianni Schicchi: Carlos ÁLVAREZ**

スペイン生まれ。現代を代表するバリトンの一人。世界中の一流歌劇場で活躍しており、1998・99年ザルツブルク音楽祭『ドン・カルロ』ロドリゴ、08年『オテロ』イアーゴ、99年ロンドン交響楽団『オテロ』イアーゴ、99年ネザーランド・オペラ『道化師』トニオ、99年ミラノ・スカラ座『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、02年パリ・オペラ座『ドン・カルロ』ロドリゴ、03年ヴェローナ野外音楽祭『リゴレット』タイトルロール、05年メトロポリタン歌劇場『仮面舞踏会』レナート、06年『ルイザ・ミラー』ミラー、『リゴレット』タイトルロール、08年ウィーン国立歌劇場『運命の力』ドン・カルロなどに出演。ミラノ・スカラ座『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、ウィーン国立歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭『リゴレット』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭『オテロ』イアーゴ、トリノ王立歌劇場『トスカ』スカルピア、ジュネーヴ大劇場『ファルスタッフ』タイトルロール、リセウ大劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどに出演した。また2度のグラミー賞(01、05年)、カンヌクラシック賞(03年)、芸術ゴールドメダル(03年)など数々の受賞歴のほか、07年にはウィーン国立歌劇場宮廷歌手の称号を、また13年にはバルセロナ・リセウ大劇場ゴールドメダルを贈られている。新国立劇場には05年『マクベス』タイトルロールに出演。

**【ラウレッタ】砂川涼子****Lauretta: SUNAKAWA Ryoko**

武蔵野音楽大学首席卒業。同大学大学院修了。第69回日本音楽コンクール第1位ならびに海外派遣特別受賞。第16回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞など受賞多数。2001～2004年江副育英会オペラ奨学生として渡伊。五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、05年より再度留学。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで本格的なオペラ・デビュー。以後藤原歌劇団『イル・カンピエッロ』ガスパリーナ、『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、日生劇場『カブレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、びわ湖ホール『死の都』マリエッタ、『椿姫』ヴィオレッタ、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』アントニアなどに出演を重ね、日本を代表するソプラノの一人として活躍中。新国立劇場では『トゥーランドット』リユー、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『魔笛』パミーナ、『夜叉ヶ池』百合、『ウェルテル』ソフィー、『ホフマン物語』アントニアで出演。2018/19シーズンは『カルメン』ミカエラで出演し、『トゥーランドット』リユーにも出演を予定している。武蔵野音楽大学非常勤講師。藤原歌劇団団員。

**【リヌッチョ】村上敏明****Rinuccio: MURAKAMI Toshiaki**

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期生修了。01年12月より文化庁派遣芸術家在外研修員として2年間ボローニャに留学。第9回バタフライ世界コンクール・グランプリなど受賞多数。これまでに『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『黒船-夜明け』領事、『修禅寺物語』源左金吾頼家、『ドン・カルロ』レルマ伯爵／王室の布告者、鑑賞教室『蝶々夫人』ピンクートン、鑑賞教室『椿姫』アルフレード、鑑賞教室『愛の妙薬』ネモリーノ、『オテロ』ロドリゴなどに出演。2018/2019シーズンは『紫苑物語』藤内にも出演したほか、『トゥーランドット』にも出演予定。藤原歌劇団団員。

**【ツィータ】寺谷千枝子****Zita: TERATANI Chieko**

東京藝術大学卒、同大学院終了。ハンブルク国立音楽大学声楽科、オペラ科共に首席で卒業。在学中、メスフィールド賞を受賞。1980年、オランダのセルトヘンボス国際声楽コンクール第2位入賞。81年ドイツのブレーマーハーフェン歌劇場とソロ専属契約を結び、『ばらの騎士』のオクタヴィアンでデビュー。以後ボン歌劇場、ハンブルク国立歌劇場などドイツを中心に活躍。また世界的ブームとなったポーランドの作曲家グレツキの交響曲第3番「悲歌のシンフォニー」を世界各地で初演している。日本でもサンティ、フルネ、インバル、レナルト、コルボ、シャイー、チョン、小澤征爾、若杉弘、大野和士など著名指揮者のもと数々のステージに迎えられ、その役作りと音楽の読みの的確さ、安定した歌唱は、常に高い評価と信頼を得ている。新国立劇場には08年『軍人たち』ヴェーゼナーの老母、コンサート・オペラ『ペレアスとメリザンド』ジュヌヴィエーヴで出演している。



新国立劇場 2018/2019シーズン

アレクサンダー・ツェムリンスキー／フィレンツェの悲劇 Alexander Zemlinsky / Eine florentinische Tragödie
全1幕(ドイツ語上演／字幕付)
ジャコモ・プッチーニ／ジャンニ・スキッキ Giacomo Puccini / Gianni Schicchi
全1幕(イタリア語上演／字幕付)

【公演日程】2019 年 4 月 7 日(日)14:00／ 10 日(水)19:00／ 14 日(日)14:00／17 日(水)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:27,000 円・A:21,600 円・B:15,120 円・C:8,640 円・D:5,400 円・Z:1,620 円

指揮……………沼尻竜典
Conductor NUMAJIRI Ryusuke
演出……………栗國 淳
Production AGUNI Jun
美術……………横田あつみ
Set Design YOKOTA Atsumi
衣裳……………増田恵美
Costume Design MASUDA Emi
照明……………大島祐夫
Lighting Design OSHIMA Masao
舞台監督……………斉藤美穂
Stage Manager SAITO Miho

【フィレンツェの悲劇】Eine florentinische Tragödie
グイド・バルディ……………ヴゼヴォロド・グリヴノフ
Guido Bardi Vsevolod GRIVNOV
シモーネ……………セルゲイ・レイフェルクス
Simone Sergei LEIFERKUS
ピアンカ……………齊藤純子
Bianca SAITO Junko

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督……………大野和士
Artistic Director ONO Kazushi

【ジャンニ・スキッキ】Gianni Schicchi
ジャンニ・スキッキ……………カルロス・アルバレス
Gianni Schicchi Carlos ÁLVAREZ
ラウレッタ……………砂川涼子
Lauretta SUNAKAWA Ryoko
ツィータ……………寺谷千枝子
Zita TERATANI Chieko
リヌッチョ……………村上敏明
Rinuccio MURAKAMI Toshiaki
ゲラルド……………青地英幸
Gherardo AOCHI Hideyuki
ネッラ……………針生美智子
Nella HARIU Michiko
ゲラルディーノ……………吉原圭子
Gherardino YOSHIHARA Keiko
ベット・ディ・シーニャ……………志村文彦
Betto di Signa SHIMURA Fumihiko
シモーネ……………大塚博章
Simone OTSUKA Hiroaki
マルコ……………吉川健一
Marco YOSHIKAWA Kenichi
チェスカ……………中島郁子
La Ciesca NAKAJIMA Ikuko
スプネッロツォ先生……………鹿野由之
Maestro Spinelloccio SHIKANO Yoshiyuki
アマンティオ・ディ・ニコラオ……………大久保光哉
Ser Amantio di Nicolao OKUBO Mitsuya
ピネッリーノ……………高橋正尚
Pinellino TAKAHASHI Masanao
グッチョ……………水野秀樹
Guccio MIZUNO Hideki

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,620 円: 公演当日朝 10 時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1 人 1 枚。電話予約不可。
* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。